

WAN production

# RESINA

Sichir Ri





## ■天然樹脂

〈樹脂〉というコトバは、いまや、ずいぶんと影がうすいようだ。

樹脂とはもともと樹皮から分泌される不揮発性の固体、あるいは半固形体の物質のことをいった。これと異なる物質だが、性質の似たものがあらわれて〈合成樹脂〉を名のる。

合成樹脂をさして、たんに〈樹脂〉ということもある。

だからわざわざ、

「こちらは天然樹脂ですよ」

といわなければならない。







レジン表面をうかがうだけでも、さまざまな色彩、フォルムを見せてくれる。  
そして表面は、そのまま中身へ通じる道筋を持っているかのようである。







陽がさしていれば、それだけで刻々変わる象である。  
さらに覗き込む位置の移動で、それこそ限りなく像を提供してくれる。











レジナから見えてくる様相、情景を  
恍惚と名づけるならば、それは  
だれをも巻き込まぬ  
だれをも説得せぬ

そこにそうしてあるだけの恍惚だ。







私は私で  
鏡に映ったもうひとつの物質であるかのように  
こちら側でかっけてに恍惚としている。









いっぽんの老木・スモモがレジナを噴き出させる状態は  
手放して喜ぶべきことでもない  
たとえばコスカシバの幼虫の食害に遭って傷ついた部分を  
樹はみずから樹脂を出して癒す、とか

レジナの噴出がコスカシバなどの食害のせいならば  
レジナはスモモの苦痛であり、惑乱であり  
ひょっとすると逆上であるかもしれず

だがわたしは、やっぱり、こちら側でのんきに恍惚としている。





固まったレジナを樹皮ごと削ってみる。  
真新しい樹の肉が数センチ四方、むき出しになる。

そこからレジナが滲み出しているのを、翌朝、見つける。(次ページ参照)







レジナを掘り返せば、ひょっとするとコスカシバの幼虫がひそんでいるのではないかと、ことに及んだのであったが、結果は、樹を傷めただけらしい。

---



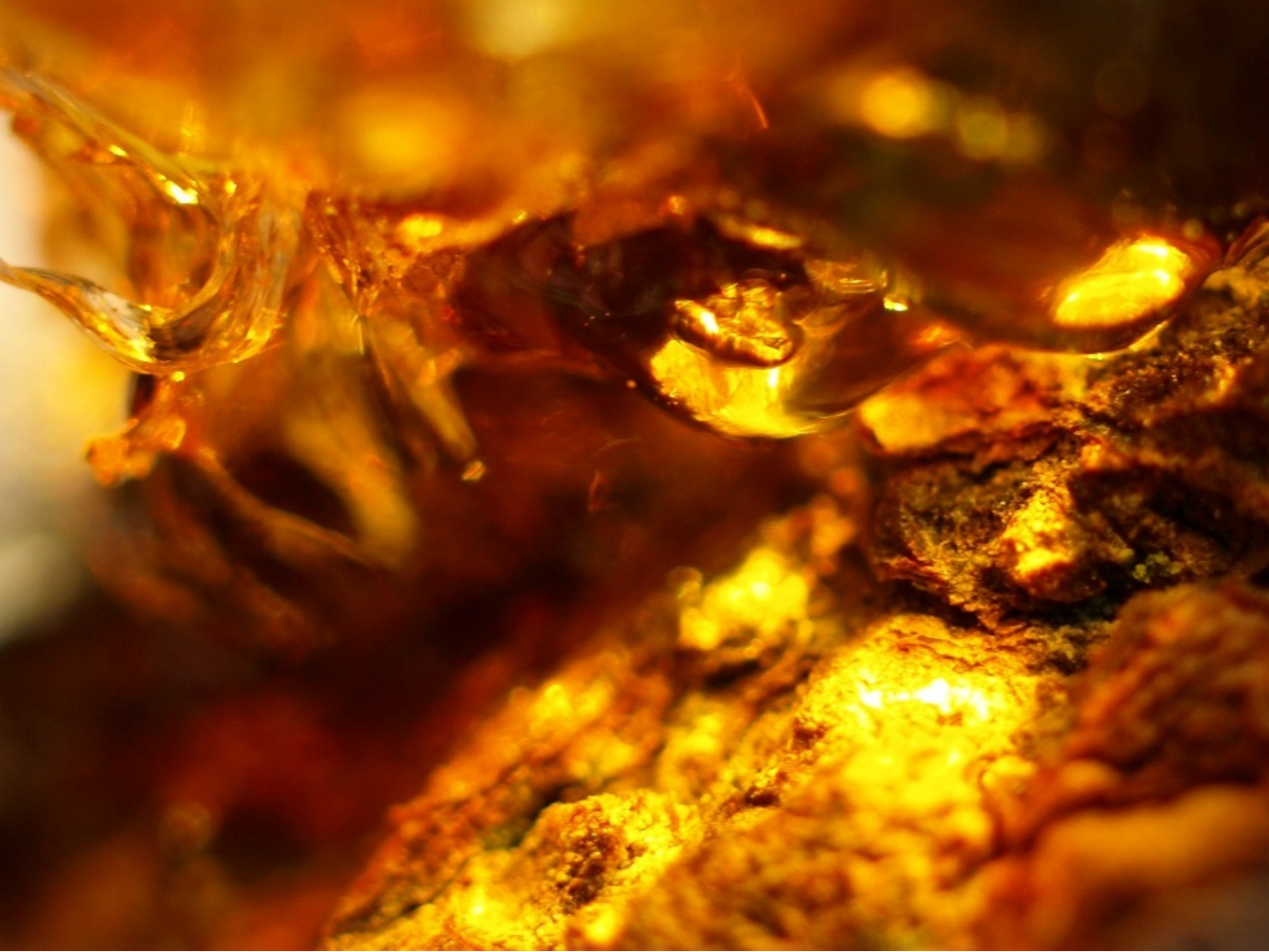














前の写真集『RESINA』は、より抽象の世界へのめりこんでいた。

が、この『RESINA ii』では多少なりとも樹脂らしさをとどめた画像を加えた。

『RESINA』『RESINA ii』とも画像はすべて、一本のスモモの樹の樹脂。

この樹脂は無味無臭だが、松脂には芳香がある。

また、カイガラムシが分泌する樹脂（シェラック）は無味無臭らしい。

ちなみに果樹の枝に発症する樹脂病は、とくに恐れるほどのことではないそうだ。

松は、樹木が不健康ならば松脂を出さなくなるとか。

いつも、レジナにいまなにが起こっているか、どんな光景を見せてくれるかと、カメラのレンズを近づけてレジナを覗いている。

わたしの思惑など、理屈の皮をほじくっていけば幼稚な好奇心の虫がひそんでいるだけの話だけれど。(七里)

(撮影／2009年1月、4月、10月)